

2024年3月期第2四半期

# 決算説明資料

2023年11月10日



株式会社富士ピー・エス



# 2024年3月期 第2四半期 決算ハイライト

## ➤ 建設業における事業環境

- 国土交通省発表の2023年度の建設投資は70兆3,200億円となる見通し（2022年度比2.2%増）
- 当社加盟のプレストレスト・コンクリート建設業協会の受注実績は2022年度4,100億円に対し、本年度も同水準の見通し、新設から維持補修・更新市場へシフト

## ➤ 当社における事業環境

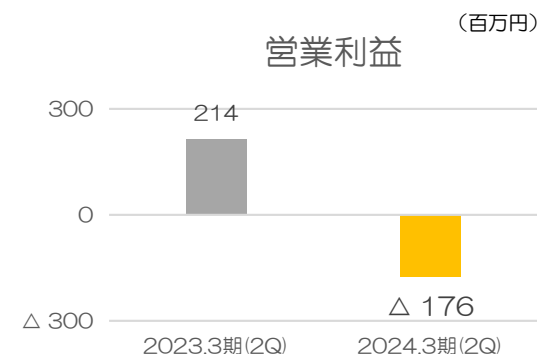
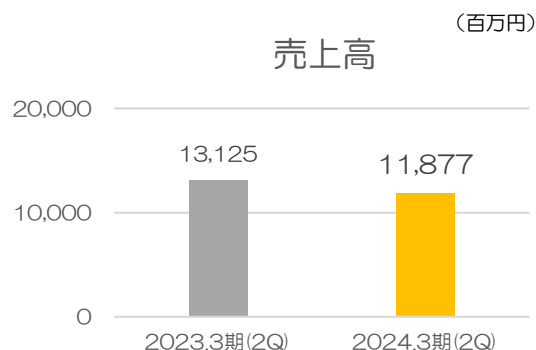
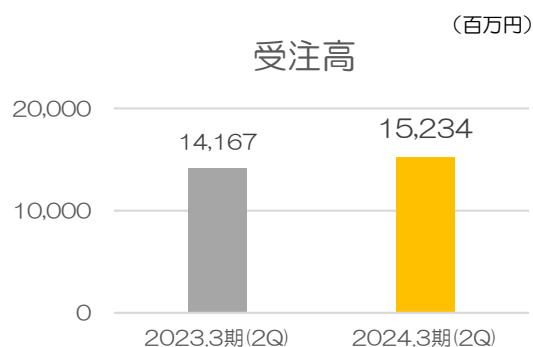
- 土木分野は、政府主導の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」や高速道路会社の「中期事業見通し」、国土交通省の令和6年度道路関係予算概算要求の内訳などから、引き続きインフラ老朽化対策など必要性の高い事業を中心に底堅く推移していくと見込む
- 建築分野は、主に首都圏を中心とした再開発事業が順調に進んでおり、市場全体の縮小には至らないと見込む

# 2024年3月期第2四半期 連結業績の概要（前期比較）

一部工事の着工遅れの影響により減収・減益となったものの受注は堅調を維持

（単位：百万円）

連結	2023/3期 (2Q)	2024/3期 (2Q)	前期比		コメント
			増減額	増減率	
受注高	14,167	15,234	1,066	7.5%	土木事業は一部の契約が遅れたことなどから微減となるも建築事業は関東地区の大型再開発事業の受注などにより堅調に推移
売上高	13,125	11,877	△1,247	△9.5%	手持工事は概ね順調に進捗したが、土木事業において一部の大型工事において工事着工までに時間を要したことによる進捗遅れの影響により減収
売上総利益 (売上総利益率)	1,755 (13.4%)	1,405 (11.8%)	△350	△19.9%	売上高の減少、採算性の高い工事の進捗遅延及び建設コストの高騰などにより工事利益率が低下し減益
営業利益 (営業利益率)	214 (1.6%)	△176 (△1.5%)	△390	— %	売上総利益の減少による減益
経常利益	228	△178	△407	— %	同上
親会社株主に帰属する 四半期純利益	101	△90	△191	— %	特別利益に国道拡幅に伴う土地の収用に係る補償金の一部受領分を計上

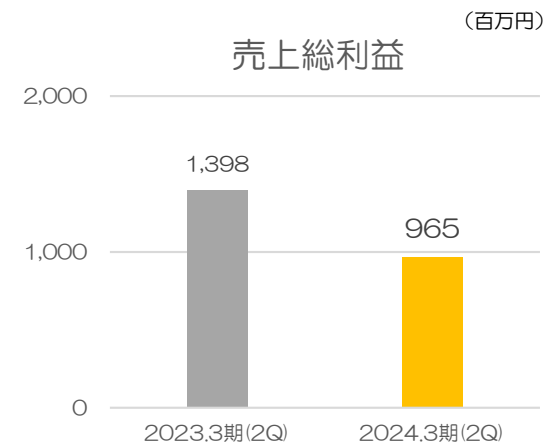
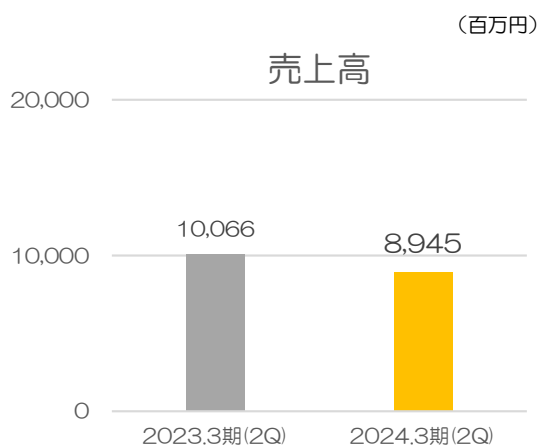
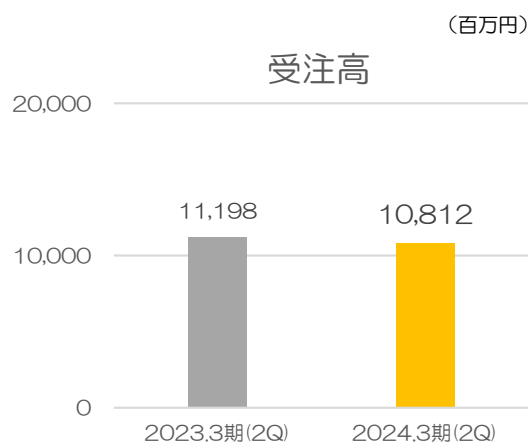


# セグメント別業績（土木事業）

受注高は堅調、売上高・売上総利益は一部の大型工事の着工遅れなどにより減収・減益

（単位：百万円）

連結	2023/3期 (2Q)	2024/3期 (2Q)	前期比		コメント
			増減額	増減率	
受注高	11,198	10,812	△385	△3.4%	国土交通省、高速道路会社、地方自治体よりバランスよく受注できたものの、一部の契約が遅れたことなどにより微減
売上高	10,066	8,945	△1,121	△11.1%	手持工事は、概ね順調に進捗したが、一部の大型工事において工事着工までに時間を要したことによる進捗遅れの影響により減収
売上総利益 (売上総利益率)	1,398 (13.9%)	965 (10.8%)	△432	△31.0%	売上高の減少に加え、採算性の高い工事の進捗が想定以上に遅延したことや、原材料などの建設コスト高騰の影響により減益

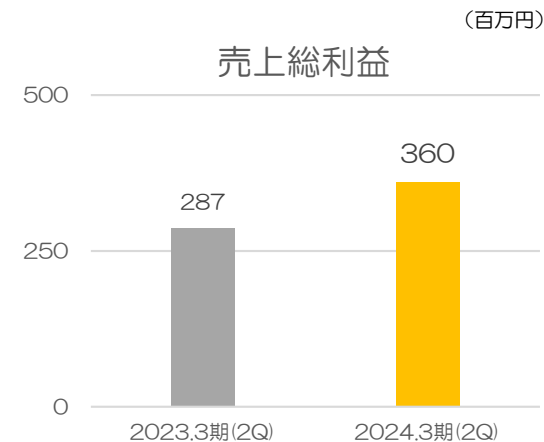
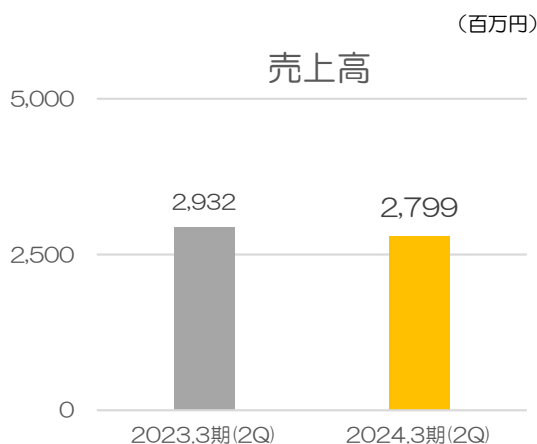
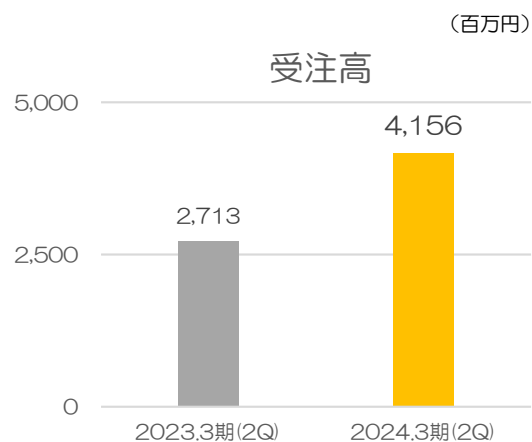


# セグメント別業績（建築事業）

受注は大型再開発事業等の契約が好調、売上高は微減となるも売上総利益は採算性の高い工事が進捗し増益

（単位：百万円）

連結	2023/3期 (2Q)	2024/3期 (2Q)	前期比		コメント
			増減額	増減率	
受注高	2,713	4,156	1,442	53.2%	関東地区で遅れていた大型再開発事業の受注に加えて、関西・中部地区におけるマンション事業の発注が順調に推移し増加
売上高	2,932	2,799	△132	△4.5%	関西・中部地区で耐震補強工事等の進捗好転があったが、関東地区の大型再開発現場において、元請都合による工事中断の影響により減収
売上総利益 (売上総利益率)	287 (9.8%)	360 (12.9%)	73	25.7%	採算性の高い工事の進捗が順調に推移したことで増益

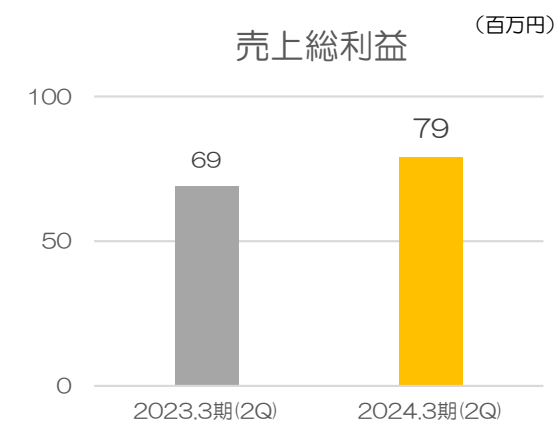
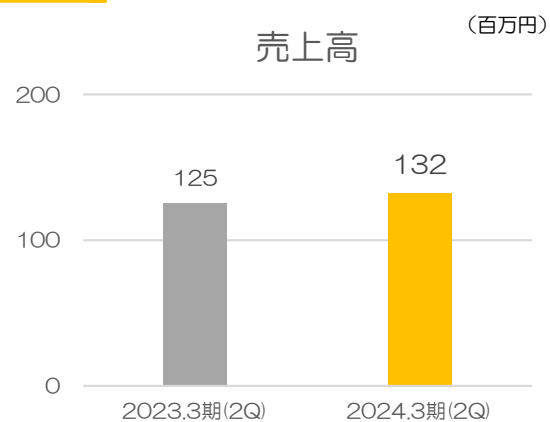
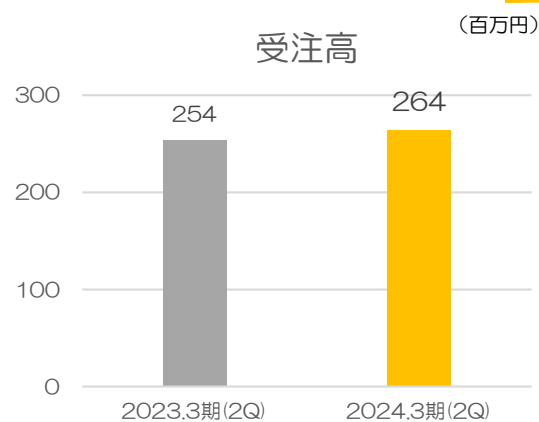


# セグメント別業績（不動産賃貸事業）

テナントの入居率は堅調に推移

（単位：百万円）

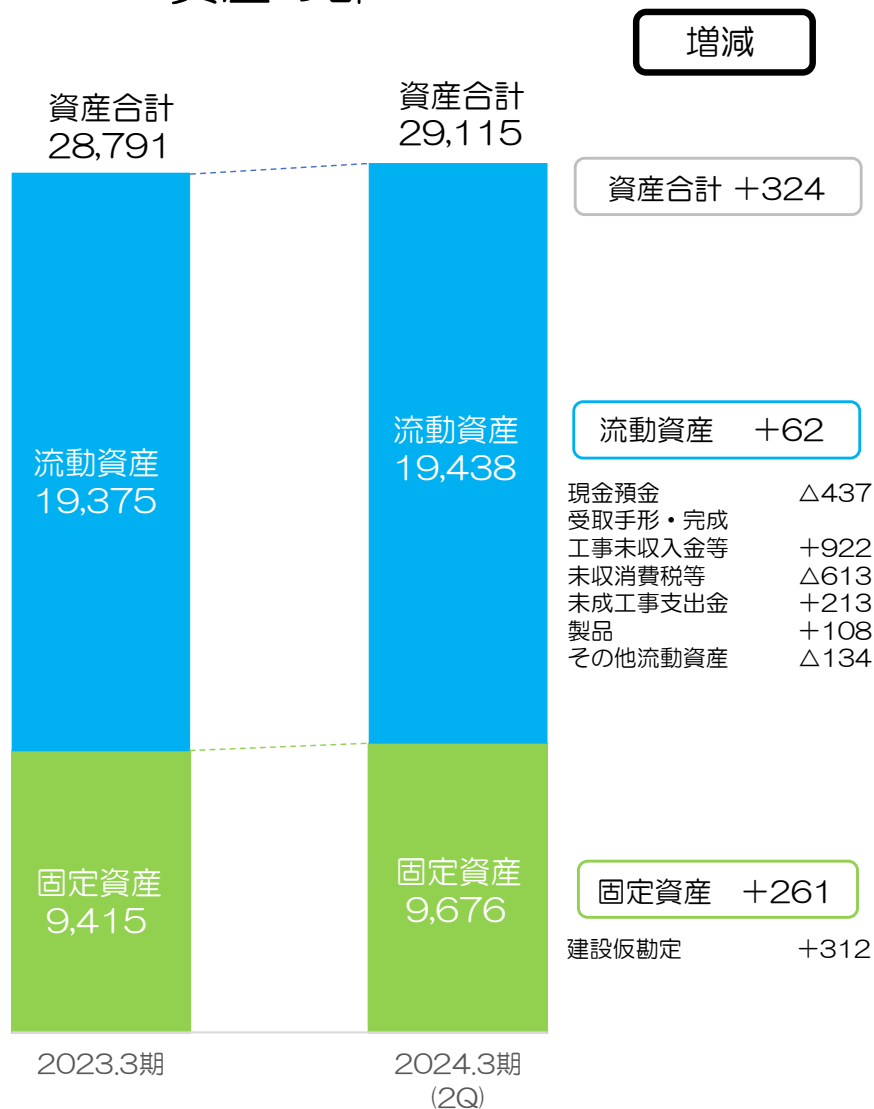
連結	2023/3期 (2Q)	2024/3期 (2Q)	前期比		コメント
			増減額	増減率	
受注高	254	264	9	3.8%	受注高、売上高、売上総利益ともに堅調に推移
売上高	125	132	7	5.8%	
売上総利益 (売上総利益率)	69 (55.8%)	79 (59.7%)	9	13.2%	



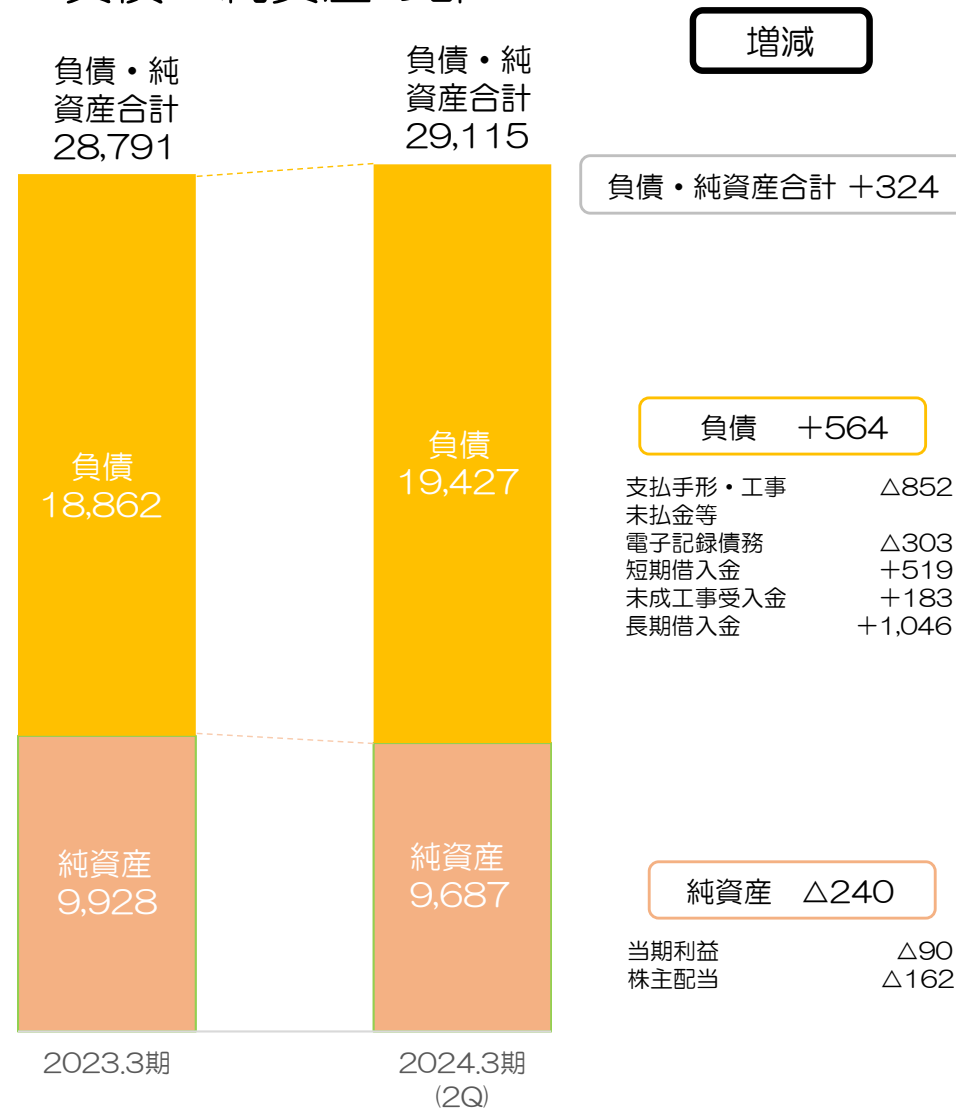
# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

## 資産の部



## 負債・純資産の部

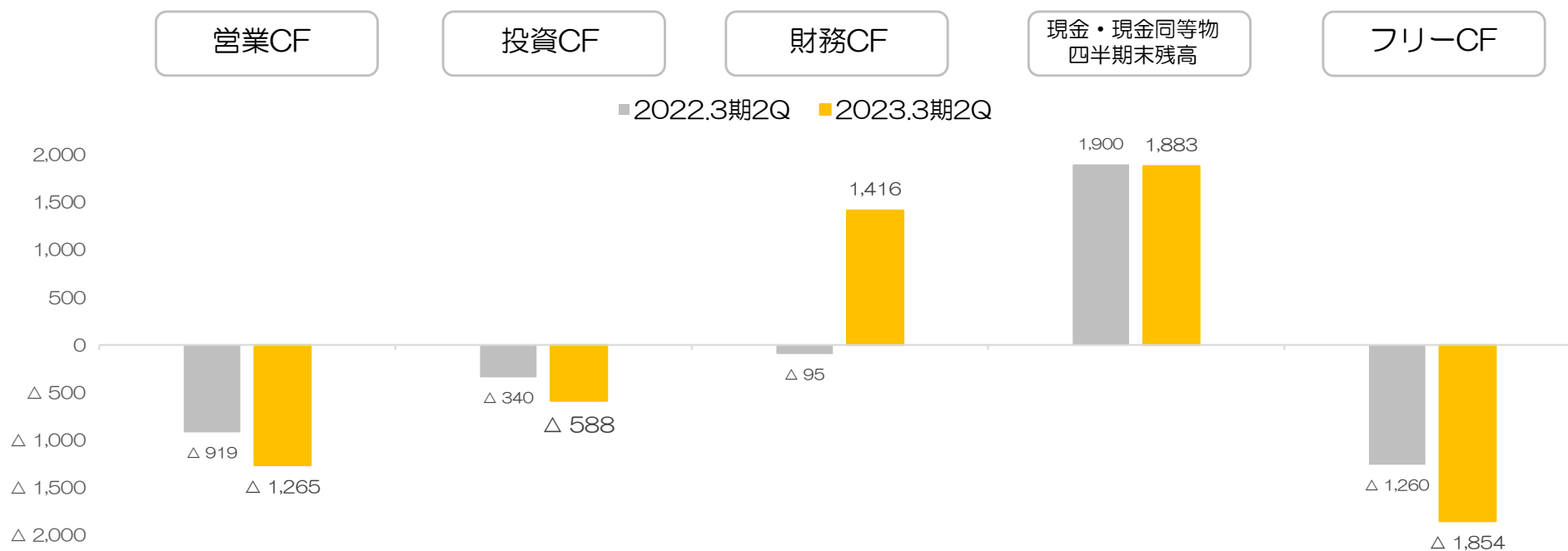


# 連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

連結	2023/3期 (2Q)	2024/3期 (2Q)
営業CF	△919	△1,265
投資CF	△340	△588
財務CF	△95	1,416
現金・現金同等物四半期末残高	1,900	1,883
フリーCF (営業CF+投資CF)	△1,260	△1,854

(単位：百万円)



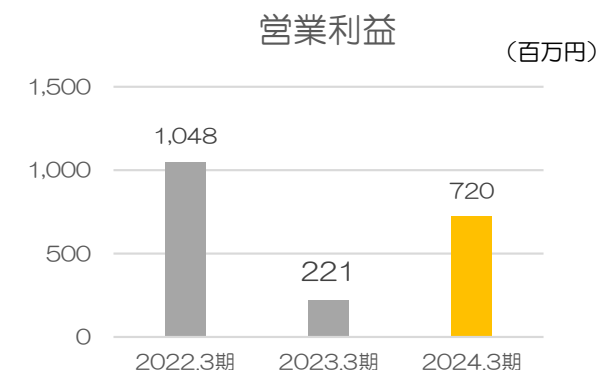
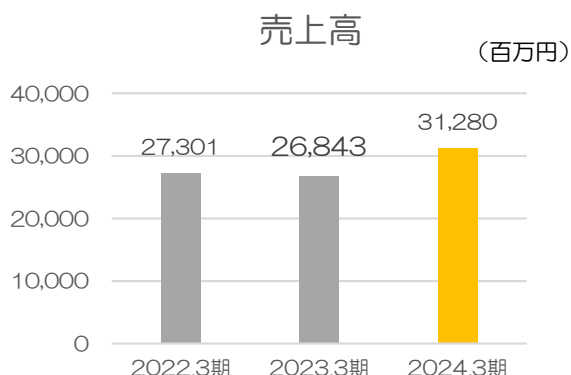
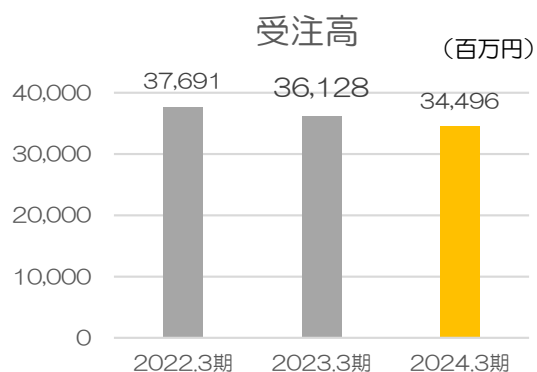


# 2024年3月期 連結業績予想

過去最高の手持工事等の順調な進捗により増収・増益見込み

(単位：百万円)

連結	2022/3期 (実績)	2023/3期 (実績)	2024/3期 (予想)	前期比		コメント
				増減額	増減率	
受注高	37,691	36,128	34,496	△1,632	△4.5%	堅調な市場環境のもと手持工事を踏まえ受注確保
売上高	27,301	26,843	31,280	4,436	16.5%	手持工事及び工場製品の順調な進捗により増収予想
売上総利益 (売上総利益率)	4,271 (15.6%)	3,372 (12.6%)	4,010 (12.8%)	637	18.9%	売上高の増加、生産効率の向上により増益予想
営業利益 (営業利益率)	1,048 (3.8%)	221 (0.8%)	720 (2.3%)	498	225.3%	売上総利益の増加に伴う増益予想
経常利益	1,111	226	700	473	209.5%	同上
親会社株主に帰属する 当期純利益	775	123	500	376	304.7%	同上



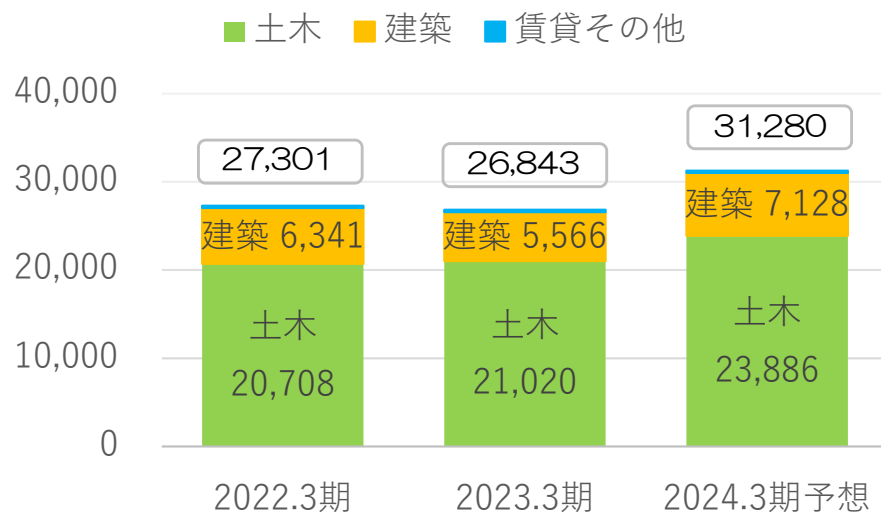
# 事業別業績予想

(単位：百万円)

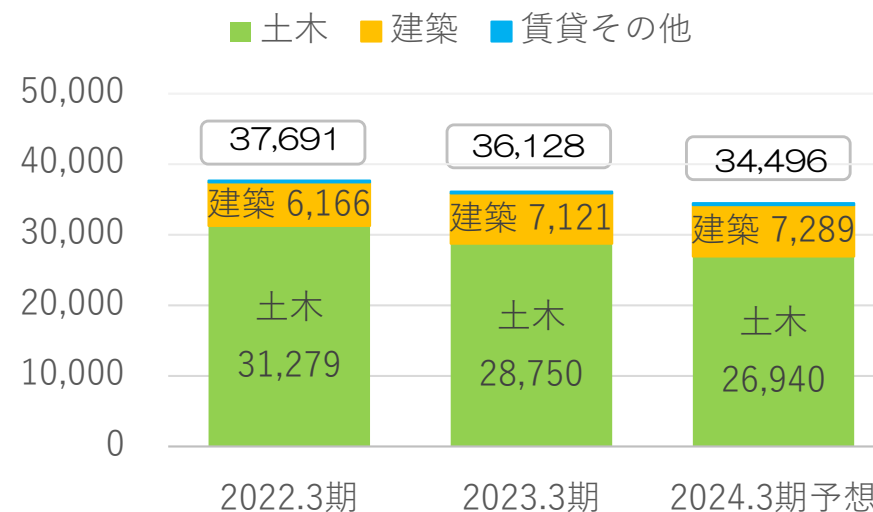
	2024年3月期予想				主な増減要因
	売上高	前期比増減率	受注高	前期比増減率	
土木事業	23,886	13.6%	26,940	△6.3%	手持工事及び工場製品の順調な進捗により増収予想
建築事業	7,128	28.1%	7,289	2.3%	マンション事業の工場製品の製作が順調に進捗して増収予想
不動産賃貸事業	265	3.7%	265	3.7%	既存所有物件の賃料交渉により増加を見込み
合計	31,280	16.5%	34,496	△4.5%	

(百万円)

売上高



受注高



# 株主還元

## 基本方針

株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つと位置付けており、財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な内部留保の充実を図りながら、安定配当を実施する

	2022/3期 (実績)	2023/3期 (実績)	2024/3期 (予想)
1株当たり年間配当	9.00円	9.00円	9.00円
配当性向	20.9%	131.2%	32.4%
株主資本配当率 (DOE)	1.6%	1.6%	1.6%

# 【参考】繰越工事高（個別）

## 当期の主な受注工事

種別	工事名称	発注者	工事概要	工事場所
土木	西湘バイパス(特定更新等)滄浪橋他1橋塩害対策工事(2023年度)	中日本高速道路(株)	電気化学的脱塩工法による塩害対策、電気防食による復旧他	神奈川県
土木	県道甘木田主丸線両筑橋橋梁上部工工事(2工区)	福岡県	県道甘木田主丸線両筑橋の橋梁架替工事	福岡県
土木	令和5年度 東九州自動車道 臼杵川橋他1橋(PC上部工)工事	西日本高速道路(株)	東九州自動車道4車線化による橋梁新設工事	大分県
建築	豊海地区第一種市街地再開発事業	清水建設(株)	RC造54階建新築マンション工事のFR板製作・運搬	東京都
建築	(仮称)大阪市淀川区十三東計画	鹿島建設(株)	RC造39階建新築マンション工事のFR板製作・運搬	大阪府
建築	新東名高速道路 小山町用沢地区飛球防護対策工事	(株)大林組	ゴルフ場からの飛球防護対策工事の桁・FC板製作・運搬・建方	静岡県

## 繰越工事高

